


【研究一様式1】

「平成31年度研究実践園研究事業」実施計画書

園名	札幌市立白楊幼稚園	園長氏名	坂田恵子
研究協力園 研究協力校 連携大学	札幌市立白楊幼稚園		
研究主題 研究副主題	<p>「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」 「みんなの中で、ぼく☆キラリ」 ～一人一人が輝き、育ち合う園生活を求めて～</p>		
研究の目的	<p>昨年度の研究を通して、「個に焦点を当てて充実感・満足感について考えてきたが、友達との関わりの中での一人一人の充実感・満足感はどうだったのだろう？」と、いろいろな友達がいる生活の中で、一人一人が育ち合っていくためにはどうしたらいいか捉えていく必要性を感じた。</p> <p>そこで、研究副主題を「みんなの中で☆ぼくキラリ」とし、一人一人が充実し持ち味を發揮しながら育ち合う園生活について研究していきたいと考えた。この“キラリ”については、一人一人の持ち味・個性と押さえており、いろいろな“キラリ”が輝き合って共に育ち合っていくことを願っている。</p> <p>主題とのつながりについては「幼稚園教育要領第1章幼稚園教育の基本(1)幼児期にふさわしい生活の展開」には、「③友達と十分にかかわって展開する生活」と明記されており、本園では主にこの観点から主題に迫っていきたいと考える。</p>		
研究内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○事例研究や、保育打ち合わせ等を通して、幼児に必要な経験や教師の援助・環境の構成について話し合う。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「幼児期において育みたい資質・能力」とのつながりについても考えていく。 ○地域公開保育の中で日々の実践や研究について公開し、区内の幼保小の教師や保育士と共に、幼児期にふさわしい生活の在り方について理解を深め合ったり具体的に発信したりする。 ○白楊小学校との連携の中で、授業や保育を見合うことや幼児児童交流を通して互いの教育の理解を深める。 ○研究の内容を研究通信として適時に発行し、ホームページで公開する。また、家庭や地域とともに幼児を育てる「共育」の観点で、研究通信の内容を工夫したり、保育参加や懇談会などでも話題にしたりする。 		
公開保育等	<p>地域公開保育 【日時】 10月11日(金) 12:30～16:00</p>		
助言者	<p>幼児教育センター 金澤 恵美指導主事</p>		

【研究一様式2】

「平成31年度研究実践園研究事業」実施報告書

園名	札幌市立白楊幼稚園	園長氏名	坂田 恵子
研究協力園 研究協力校 連携大学	札幌市立白楊小学校		
研究主題 研究副主題	<p>「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」 『みんなの中で、ぼく☆キラリ』 ～一人一人が輝き、育ち合う園生活を求めて～</p>		
研究の成果	<p>今年度は、各学年2名ずつ抽出児を出し、研究を進めていった。以下の3点を事例の話し合いのポイントとした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 2px dashed orange; padding: 5px; border-radius: 10px;">①この子のキラリ☆は？</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; border-radius: 10px;">②さらに輝くために必要な経験は？</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; border-radius: 10px;">③そのために必要な援助・環境の構成は？</div> </div> <p>次に、前期で話し合ったことを意識して援助や環境の構成を行い、どのように変容したかを後期の事例を出して検証していった。</p> <p>事例の話し合いの抜粋(年中4歳児の事例より)</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 2px dashed orange; padding: 10px; border-radius: 15px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・経験を生かし、推察、工夫する。 ・困っている友達を助ける。 ・よく見て考える。 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; border-radius: 15px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースが守られて安心して遊びを楽しめる経験。 ・教師に思いを受け止めてもらう経験。 ・友達に受け止められ、喜んでもらえる経験。 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;">  <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; border-radius: 15px; width: 35%; margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの場を共有しながらも、「セーフティーゾーン」(役割の固定など)を設け、安心して友達との遊びを楽しめるようにする。 ・その子なりの変化や工夫を言葉に表して認める。 </div> </div> <p>各事例を研究の視点である“主体的・対話的で深い学びの充実”から検証し、今年度の研究で以下のことがわかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主体的な姿はその子だけで自己完結するのではなく、人と関わることで経験が広がる。 ●友達がおもしろいなと思うことを、みんなでおもしろがれるように巻き込んでいった。それが、やってみたいという意欲の広がりや、友達と共有していく気持ちなどにつながった。 ●思いを巡らせながら繰り返し楽しみ、試行錯誤や工夫していける生活を保障し、幼児が充実感や満足感を味わえるようにすることが大切である。 等 		